



イザヤ四十一章5、6節

天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

一般財団法人 ジェネシスジャパン 2025年2月8日
ニュースレター 第66号
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3
電話 029-292-9621 ファックス 03-6862-8340
メール info@genesissjapan.com ホームページ genesissjapan.com

A Philosopher Lecturing on the Orrery (1766) by Joseph Wright, in which a lamp represents the Sun.



聖書の知恵と人の知恵

人は皆草のようで、その栄華はすべて草の花のようだ。
主が荒野に熱風を送られると、草は枯れ、花はしぼむ。
確かに、人は草のようだ。草は枯れ、花はしぼむ。
しかし、主の御言葉は、とこしえに残る。

創造主訳聖書 イザヤ書40章6〜8節

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

聖書に対する否定的な印象

私たちは、多くの人々が「聖書と科学は対立する」と信じる時代を生きています。これは公教育やマスメディアなどを通して「進化論は科学で正しく、それを否定する聖書は非科学的だ」と語られ続けてきたためです。

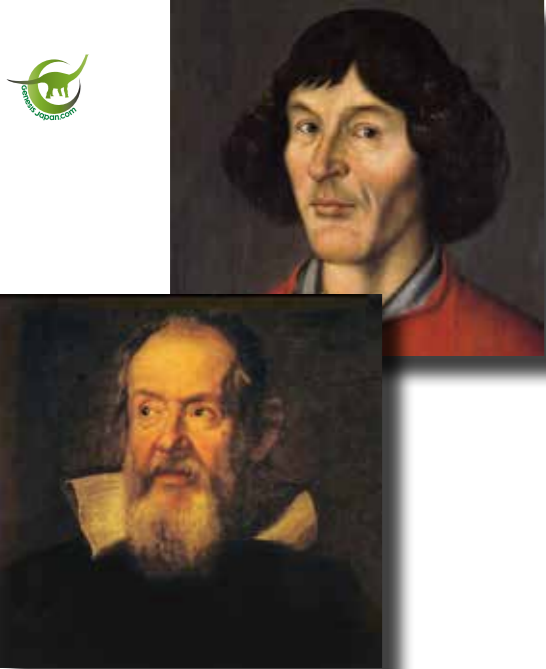
このため、聖書を信じていても「天地創造をそのまま信じてよいのだろうか」と不安を感じる人もいないのでしょうか。先日、ある方から「科学者のガリレオが地動説を唱えた時、聖書が天動説を教えているとする教会は、彼を

裁判にかけて有罪とし、異端者に認定したと聞いたが、本当に聖書は天動説を教えているのか」と尋ねられました。

ガリレオ・ガリレイ（1562-1642）は、近代科学の基礎を築いた数学者・天文学者として知られ、大学の教授であり聖書を信じるクリスチャンでした。先の質問にあるガリレオ裁判の通説は、『科学と聖書の対立』の構図を演出するために無神論者たちによって歪曲されて流布された話です。現代の科学史家の中に、ガリレオ裁判をそのような対立と見なしている人

はほとんどいません。科学史家の株本訓久氏はこう述べています。「ガリレオは、生涯を通して敬虔なカトリック信者であり、キリスト教を非合理的なものとして否定していたのでもなければ、キリスト教会による科学の弾圧に対して戦いを挑んだ科学の殉教者でもなかった。彼は、自然は神の聖なる命令に従って造られた第二の『聖書』であり、神が自然界を統べる数学的な法則を発見することは真理に至る方法であると考えていたのである。」¹

ガリレオは、ただ創造主が造られた世界のすばらしさを解明しよ



天動説に対して地動説を主張したコペルニクス(上)とガリレオ(下)の肖像画

コラム：天動説と地動説

天動説と訳された単語の **geocentrism** は、直訳すると**地球中心説**となります。本来は宇宙の中心に地球があるという考えです。これに対し**地動説**と訳された **heliocentrism** は、直訳すると**太陽中心説**で、これも宇宙の中心に太陽があるという考えです。コペルニクスはそのような意図で地動説を用いました。

今日、宇宙の中心に太陽があると考える科学者は一人もいません。太陽系も天の川銀河を公転しているためです。

そういう意味では、地球中心説も太陽中心説も間違いとなります。天動説、地動説と和訳されたために本来の定義が正しく伝わっていないと思われれます。

現在では、太陽が宇宙の中心であると主張する人はいませんが、太陽の周りを地球が公転しているという意味で地動説という言葉が用いられています。

うとしていただけなのです。

古い科学 vs. 新しい科学

ガリレオ・ガリレイが生きていた17世紀に広く受け入れられていた科学知識は、古代ギリシアのアリストテレスの理論に基づくものでした。そしてガリレオと本当に対立していたのは、教会ではなく**逍遥学派**と呼ばれるアリストテレスの理論を信奉する哲学者たちだったのです。

たとえば物体の自由落下についてアリストテレスの理論では、重い物体ほど重さに比例して速く落ちると教えていました。ガリレオは実験を通して、物体は重さに拘わらず重力によって同じ加速度で落下することを証明しました。

このガリレオの発見から、私たちが物体のt秒後の落下速度vを算出することができます。

$$\begin{aligned} \text{自由落下する物体の速度} \\ v(\text{m/s}) &= 9.8\text{m/s}^2 \times t (\text{s}) \\ 9.8\text{m/s}^2 & \text{は重力加速度} \end{aligned}$$

ガリレオは著書『運動について』でこう述べています。

「この(アリストテレスの)意見が、**どれほど馬鹿げたものであるかは、白日よりもなお明らかである。というのは、たとえば次のようなことを誰がいったい信ずるだろうか。・・・一方が他方の二倍の大きさをもつ二つの石が、高い塔から同時に投げられた場合、大きい方が地上に着いたとき、小さい方がまだ塔の半分のところにいるなどということ**」²

ガリレオの研究成果はすばらしいもので、私たちに様々な恩恵をもたらしていますが、逍遥学派を見下したこのような論調が、彼の発言や著書に散見されました。このため逍遥学派の哲学者たちは、ガリレオに対して苦々しい思いを

募らせていき、最終的に教会を巻き込み、教会にガリレオを裁かせたのです。

天動説 vs. 地動説

逍遥学派が信じていた天動説に対し、地動説を最初に主張したのはコペルニクス(1473-1543)で、彼はカトリック教会でカノン(律修司祭)と呼ばれる高位の司祭でした。逍遥学派との論争はありましたが、地動説のために彼が異端視されることはありませんでした。また地動説を記した彼の著書『天球の回転について』は、ガリレオが生まれる約20年前に出版され、70年以上に亘って自由に読むことができました。しかし1616年にガリレオに対する異端審問が行われた影響で、初めて禁書目録に追加され、約200年に亘り禁書とされてしまったのです。

最初に天体望遠鏡を自作して、天体を観測したのはガリレオです。彼は天動説で語られていない月のクレーターや木星の衛星、金星の満ち欠けなどを発見し、これらの観測などから地動説を確信し『天文対話』を著しました。その中では、天動説が誤りであることが主張されています。

これに真っ向から対立し、ガリレオを糾弾したのは、逍遥学派の論客、天文学者のロドリコ・デッレ・コロンプでした。

天体の動きと聖書の教え

逍遥学派は、天動説の裏付けを聖書に求めました。ヨシュア記10章13節には、太陽が動きを止め丸一日中天に留まったとあります。彼らは、これこそ天動説の聖書の裏付けだと主張しました。その主張を信じた宗教改革者、マル

ガリレオ著『天文対話』の表題(1632年)彼は、天体望遠鏡を自作し、木星の衛星、月のクレーター、金星の満ち欠けを発見した。これらの観測から彼は地動説を確信し、天動説は誤りであると主張した。



DIALOGO DI GALILEO GALILEI LINCEO MATEMATICO SOPRAORDINARIO DELLO STUDIO DI PISA. E Filosofo, e Matematico primario del SERENISSIMO GR.DVCA DITOSCANA. Doue ne i congressi di quattro giornate si discorre sopra i due MASSIMI SISTEMI DEL MONDO TOLEMAICO, E COPERNICANO, Tronquendo indeterminatement le ragioni Filosofiche, e Naturali tanto per l'una, quanto per l'altra parte. CON PRI VILEGI. IN FIORENZA, Per Gio:Batista Landini MDCXXXII. CON LICENZA DE' SUPERIORI.

チン・ルターもガリレオの地動説を批判したのです。

ここで私たちが注意しなければならないのは、この聖書箇所が天動説を主張しているわけではないということです。天動説の裏付けとして聖書が利用され、それを教会が取り入れたのです。ガリレオは、太陽が留まったのは、創造主が地球の自転を止めたため、聖書の言葉との矛盾はないと理解していました。他にも聖書が天動説を教えているとして、無神論者たちによって引き合いに出される箇所がいくつかあります。

創世記1章14-18節：天体の創造を述べているだけで、天動説の主張はない。

ヨブ記26章7節：この箇所は地球が「何もないところ(宇宙空間)」に置かれていて、しかも原語では「北を虚空に傾け」と宇宙空間で地球が太陽に対し地軸が傾いていることを語っており、これによって季節が生じる。天動説とは関係なく、現在の天文学の知識と一致する。

詩篇96篇10節、104篇5節：「地は揺るがない」とあるから「地球は宇宙の中心にあって動かない」ことを教えていると主張されるが、ここは、地球を揺るがない人の住処として造られた創造主を讃えている箇所である。

詩篇19篇5-6節、伝道者の書1

章5節：「太陽は…その走路を喜び走る」「日は昇り、日は沈む」など天動説を教えていると主張される。これは、聖書の言葉を科学的に解釈しようとする時に起こる過ちである。私たちが「太陽が移動した」とか「日が昇った」と普通に使うが、天動説を信じているわけではない。

聖書に天動説を主張する記述はありません。それにも拘わらず、聖書が天動説を教えていると、まことしやかに主張されてきました。そのため多くのクリスチャンがこの主張に騙され、天動説を聖書の教えだと信じ込んでしまったのです。そして、後に科学で天動説が否定されるようになると、多くの人が教会を去って行ったのです。聖書に対する質問を提供しているGot Questions 宣教会のホームページに当時のことが記されています。

「悲しいことに、時が流れ地球が太陽の周りを公転しているという理解が深まるにつれて、多くの人が聖書の言葉に対する信仰を失ってしまった。それは彼らが、天動説こそ聖書が教える真理であるかのように誤って教えられていたからである。」³

私たちは、科学の学説を裏付けるために聖書を利用することが、どれだけ危険なことかを肝に命じるべきです。その学説が誤りとされると共倒れとなり、聖書の教えも誤りだと見なされるからです。

有神進化論の罫

ガリレオの時代にアリストテレスの理論が浸透していたように、今日科学の支柱として広く信じられている教えは進化論です。進化論は、創造主が存在しないことを前提に万物の存在を説明しようとする人の知恵で、進化を再現することも観察することも不可能で、進化論は誰にも証明できないのに信じられているのです。

クリスチャンの科学者や神学者の中にも、進化論と聖書の両方を信じようとする有神進化論者がいます。この立場は現代科学の進化論を正しいとし、聖書の天地創造はそのまま信じるべきではないとします。また、聖書通りに天地創造を主張して、科学と聖書が対立していると思われるのを恐れるのです。そこで彼らは、進化論と矛盾しない聖書解釈を模索します。

天文学者のヒュー・ロスは、宇宙進化論のビッグバン説を信じていました。創世記1章3節の「光よ、あれ」の光こそビッグバンだと信じ、そう主張するようになりました。そして進化論の主張を概ね受け入れ、進化論の年代と順序に合わせて創造主が被造物を徐々に造ったと主張しています。

神学者のジョン・ウォルトンは、進化論を信じていました。そのため創世記1章を史実とは考えられず、『機能的創造論』という独自の説を提唱しました。彼は、古代メソポタミアの神殿とその信仰様式に基づいて創世記1章を再解釈し、宇宙を創造主の神殿に見立て、その神殿に機能を割り振ったことを教えている箇所だと主張したのです。そして自説に辻褃を合わせるために創世記2章以降もその歴史性を否定して独自の解釈を重ね、聖書の教えを難解で概念的な

ものに変えてしまいました。

この世の知恵と聖書の知恵が矛盾する時、この世の知恵で聖書を理解しようとするなら、聖書を文字通りに信じられなくなるだけでなく、その真理を見失ってしまいます。パウロはこう書いています。

知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。第一コリント1章20-21節

またペテロは、この世の教えとの混ぜ物ではない純粋な聖書の言葉を求めることの大切さを教えています。

ですから、あなたがたは…すべてのごまかし…を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。第一ペテロ2章1-2節

もし私たちが、この世の知恵である進化論で聖書を読み解こうとするなら、自分が納得できるように聖書を再解釈して自分をごまかさなければならなくなります。ペテロは、聖書に対するそのような姿勢は信仰の成長を阻み、救いからも離れさせると暗に警告しているのではないのでしょうか。

この世の知恵に依らず純粋な聖書の知恵を信じるのか、それともこの世の知恵に基づいて聖書を再解釈するのか、創造主が認めるのはどちらでしょう。

聖書の知恵か人の知恵か

冒頭のイザヤ書の言葉は、人の知恵の儂さと聖書の言葉の確かさを教えています。

かつて一世を風靡したアリストテレスの理論も、今は過ぎ去りました。ヘッケルの反復説、進化上の痕跡器官という考えなど、かつて進化の証拠とされた様々な主張も次々と捨てられています。現在進化の証拠とされているものも、同様の運命を辿るでしょう。

私たちは、過ぎ去っていく人の知恵に頼って聖書の言葉を否定するのではなく、とこしえに残る聖書の言葉に信頼を置こうではありませんか。そうすれば、創世記の天地創造は史実だと確信をもって告白できるのです。

引用文献・参考文献

1. 株本訓久「ガリレオ・ガリレイの生涯」天文教育、97号 Vol.21 No.2、2009年3月号、p.39 <https://tenkyo.net/kaiho/pdf/2009_03/2009-03-03.pdf>
- 2 「ガリレオによるピサの斜塔実験」ウィキペディア、<<https://ja.wikipedia.org/wiki/ガリレオによるピサの斜塔実験>>
3. "Does the Bible teach geocentrism?" Got Questions. Got Questions Ministries. <<https://www.gotquestions.org/geocentrism-Bible.html>>

講義・イベント予定

2025年
■春の創造セミナー
日程：2025/3/27-29
会場：長野県：ガトーキングダム小海

■創造を伝える働き人養成講座
*洞爺湖講座
日程：2025/5/27-29
会場：北海道：ゆとり洞爺湖

*高知講座
日程：2025/7/7-7/9
会場：高知県：高知市内で調整中

■全アジア創造カンファレンス
日程：2025/8/21-23
会場：シンガポール：
救世軍ブレイズヘブン礼拝堂
Opt. 植物学者バットン博士による「シンガポール植物園進化論ツアー」

2026年
■創世記の爪痕を巡る旅
日程：2026/8/22-30を予定
(日程は多少変更になる場合がありますのでご了承ください)
行先：米国グランドキャニオン・デスバレー・マンザナー日本人キャンプ跡・ヨセミテ国立公園など
ノアの洪水で形成された地層や峡谷、洪水後の氷河期に形成された氷河地形を訪れ、講義と見学を通して創世記の出来事に思いを馳せます。

詳細はジェネシスジャパンまで

献金のお願い
国内外に聖書的創造を伝えるため、ご支援をお願いします。
ジェネシスジャパン
ゆうびん振替 00350-7-3364
ゆうちょ銀行 10650-52405611



【募集要項】
聖書を創造主の言葉と信じる方
イエス・キリストを救い主と信じる方
創造を信じる大切さを伝えたいと願う方

創造を伝える働き人養成講座

講座の目的と概要

- * 創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
- * 創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
- * 創造を伝えるために役立つ資料の提供。
- * 修了証授与（全日程参加者）
- * 創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。

(参加費等はお問い合わせください)

詳細はジェネシスジャパンまで